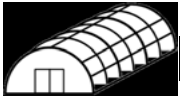


秋冬ねぎの栽培ポイント → 目標:収量2,200kg/10aの確保とタネバエ食害対策

月別 旬別	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
チェーンポット	○……○ 3月20日前後			△……△ 5月15日前後			▲……▲▲……▲ ※:梅雨入り前までに最低3回の土寄せ・追肥			▲……▲▲……▲ 高温時の作業は控えましょう。			▲……▲▲……▲			□……□□……□											
10月どり	○……○ 3月20日前後						△……△			▲……▲▲……▲ ※:梅雨入り前までに最低2回の土寄せ・追肥			▲……▲▲……▲ 高温時の作業は控えましょう。			▲……▲▲……▲			□……□□……□								
11月どり	○……○ 4月5日前後						△……△			▲……▲▲……▲ ※:梅雨入り前までに最低1回の土寄せ・追肥			▲……▲▲……▲ 高温時の作業は控えましょう。			▲……▲▲……▲						□……□□……□					
作業内容	 ハウス準備			は種・育苗・移植						本畑準備			土寄せ・追肥・除草						本畑病虫害防除			収穫・調整・選別・出荷					

1.は種・育苗・移植

(1).収穫時期に合わせた『は種時期』と育苗様式

は種期	育苗様式	収穫開始
3月中旬～3月下旬	露地トンネル・チェーンポット	9月下旬～
3月下旬～4月上旬	露地ベタかけ・チェーンポット	10月上旬～
4月上旬～4月中旬	露地普通	11月上旬～

(2).ハウス育苗の場合

①.加温育苗 … 冬期は種の場合には、電熱線等を活用しての被覆となります。

②.無加温育苗 … 冬期は2重被覆・春期以降は1重被覆で対応します。

③.育苗資材の目安

項目・資材名	ペーパーポットNO15	チェーンポットCP303	げんきくんねぎ培土
ひっぱりくん	—	60～70枚	13～15袋
手移植	50～60枚	—	8～10袋

④.必要種子量については、コーティング種子で40,000～45,000粒となります。
【は種後2週間～20日】 【ひっぱりくんでの移植】




⑤.被覆資材の除去 … 上記写真のとおり緑化して1cmを目安としてください。
ポイント1 … 無加温の場合、出芽までの日数が2月で15～20日間、3月で10～14日、4月以降の気温が安定すれば7日前後で出芽します。
ポイント2 … は種後の乾燥は発芽率の低下につながるため、特には種時には多めに灌水をお願いします。(※.コーティング種子は、たっぷり灌水してください。)

(3).露路育苗の場合

①.苗床準備
苗床の施肥例(砂丘地a当りkg)

肥料名	施用量	N	P	K	施用時期	
基肥	完熟堆肥	200	—	—	—	は種10日前
	苦土タンカル	10	—	—	—	は種10日前
	ねぎ肥料S403	10	1.0	1.4	1.3	は種7日前
追肥	燐硝安加里	3	0.5	0.5	0.4	は種後30日
	燐硝安加里	3	0.5	0.5	0.4	は種後60日
合計		—	2.4	2.0	2.1	

②.除草対策
… 前年秋(12月上旬まで)にガスタード微粒剤等の土壌消毒を10a当り2kg散布して耕耘してください。消毒効果及び雑草種子の飛散を考慮して、薬剤処理後にビニール等で被覆してください。

③.は種作業
… 畦幅120cm、条間10cm×6～7条程度、覆土は0.5～1.0cmとし深まきは出芽不良の原因となりますので、注意してください。

④.灌水
… は種時の灌水は、十分にしてください。また発芽から2葉期位までは土の表面が乾かない程度に十分灌水し、特に出芽直後の乾燥には注意してください。スプリンクラー30分で約4mm程度を目安としてください。

⑤.被覆資材の除去
… 初期生育の確保と飛砂・乾燥・病虫害防除にパスライト等のベタかけ資材を利用すると安定します。尚、は種後約1月間は被覆してください。

⑥.間引き
… 出芽が揃い後、密生部があれば1m当り50本前後を目安に間引きましょう。

2.本畑の準備と移植

(1).深耕

ねぎは、好気性作物であることから湿害には非常に弱いです。特に砂丘地といえども耕盤ができることは、降雨のほ場を見れば一目瞭然です。排水の悪い場合には、サブソイラーや深耕ローター等で耕盤破碎を行い、転作地については明渠を実施してください。

(2).10a当り施肥量(単位10a当りkg ※.基肥の石灰窒素は、必要に応じて施用する。

肥料名		施用量	N	P	K	施用時期
基肥	完熟堆肥	2,000	—	—	—	定植前7~10日
	石灰窒素	40	8.0	—	—	前までに施用する。
	苦土タンカル	120	—	—	—	
	BMよつりん	60	—	12.0	—	
根付け肥	燐硝安加里	30	4.2	3.0	3.9	定植後5日
追肥	ねぎ肥料S403	160	22.4	16.0	20.8	20日間隔×3回
合計		—	34.6	31.0	24.7	

(3).移植

①.栽植密度 … m当り40~45本を目安として10a当り40,000本を植込みましょう。また植付時の深さとしては、5~6cmを目安にしましょう。

②.苗姿

●.地床育苗の場合 … 太さ8mm前後 草丈40~45cm

●.チェーンポット育苗の場合 … 太さ2~3mm前後 草丈15~20cm

(4).根付け肥 … 活着後(7日後程度)、ねぎ肥料S403を40kgもしくは燐硝安加里を30~40kgを必ず施用してください。

3.初期~中期管理

(1).殺虫剤の施用(特にタネバエに要注意)

移植後、ハモグリバエ・アザミウマ防除に粒剤6kg/10aを施用してください。また近年問題になっているタネバエには、細心の注意が必要です。

(2).除草剤の散布(抑制剤)

初期の雑草処理が特に『ねぎ栽培』においては、重要となってきます。とかく除草作業の遅れから生育の遅れに繋がり易いので、抑制剤の散布等により必ず実施してください。

… 活着後、ゴーゴーサン乳剤200~300cc/10aを水100%に溶かして全面散布してください。尚、降雨前の作業は行わないでください。

(3).梅雨時期の管理 … 排水の悪いほ場については、明渠を確実に実施してください。

(4).夏場の管理

ねぎは全般的に夏場は生育が一時停滞します。このことから梅雨明け後の高温期間の(7月中~8月下旬)までは無理をして作業をしないでください。… 軟腐病の発生防止

但し、害虫(ネダニ・タネバエ・ハモグリバエ・アザミウマ)の予防には、十分注意してください。

【夏場の作業による生育停滞】

→ 【それに伴う軟腐病の発病】



4.土寄せ及び追肥

(1).目的 … 倒伏防止・軟白形成・発根促進を目的に実施します。実施時には十分に太らせて且つ適期に最低5回行いましょう。また追肥作業も同時に行いましょう。

①.土寄せ作業が早すぎると → 葉鞘は伸びますが、細物が多くなります。

②.土寄せ作業が遅すぎると → 太物が多くなりますが、葉鞘は伸びにくくなります。

(2).土寄の目安 … 葉鞘径が15mm以上になってから行いましょう。

区分他	9月下旬出荷	10月上旬出荷	11月下旬出荷	土寄せ量	植付深	茎径	生葉数	草丈	分岐点長
1回目(工用)	6月上旬	6月下旬	7月上旬	5cm	10cm	12mm	3.5	35~45	12cm
2回目(平ら)	6月下旬	7月上旬	8月下旬	5cm	15cm	15mm	4.0	60~80	23cm
3回目	7月上旬	8月下旬	9月中旬	7cm	22cm	18mm	5.0	90~100	27cm
4回目	8月下旬	9月上旬	9月下旬	7cm	29cm	20mm	5.5	100以上	34cm
仕上げ(手寄せ)	9月中旬	9月下旬	10月上旬	1cm	30cm	20mm	5.5	仕上げ110	—

①.上記の表はあくまでも目安です。実際の生育進度を確認してから作業を実施してください。

②.特に7月中旬~8月中旬までの高温期には、できるだけ土寄せ作業を控えましょう。

③.仕上げの土寄せは、収穫期より逆算して行いましょう。土寄せ後、展開葉2.5~3枚で収穫となるので、目安として次の日数が必要となります。

●.9月下旬出荷の場合 … 軟白日数は15日程度必要です。

●.10月上旬出荷の場合 … 軟白日数は20日程度必要です。

●.11月上旬出荷の場合 … 軟白日数は30日程度必要です。

●.仕上げの土寄せは、十分太らせてから行いましょう。この時、土寄せが不十分だと倒伏の原因となり、上げ過ぎると軟白伸長が遅くなりますので注意してください。

(3).追肥の目安

ねぎは基本的には、追肥で生育量を調整します。土寄せ時期に応じ次の施肥を目安としてください。

●.1回目・2回目・4回目土寄せ … 燐硝安加里 または ねぎ肥料S403を40kg施肥してください。

●.3回目・仕上げ土寄せ … 燐硝安加里 または ねぎ肥料S403を20~40kg施肥してください。

5.収穫・選別調整・荷造り

(1).収穫期間

ねぎは収穫期間が長い作物です。収穫可能な姿を確保しておけば、気象状況及び個人の予定にあわせて収穫作業を実施してください。

(2).作業体型 … 堀取り→粗選別→コモ入れ→根切り→葉切り→皮むき→選別→調整→荷造り

(3).個人で収穫・選別調整・荷造りする場合

【収穫前ほ場】

→ 【堀取り】

→ 【コモ入れ】

→ 【調整】



※.秋も深まってくると年によっては、降雨後のねぎ体内水分も上昇し、箱詰め後のヌルによって出荷箱を潰すこともありますので注意してください。また降雪時には、ねぎが折れたり曲がったりするので12月上旬を目安に収穫を完了したほうが良いと思われます。

(4).JA北越後の共選へ搬入する場合

JA北越後では、平成25年度より県の補助事業を活用し、ねぎ共同選別機を導入しています。

市場への安定数量出荷、労働力軽減、栽培面積の拡大に有効な手段として実施しています。

【JAへの持ち込み】

→ 【共選作業風景】

ねぎ共選の年度別利用実績



対象年度	割合
平成25年度	39%
平成24年度	40%
平成23年度	32%
平成22年度	33%
平成21年度	19%

6.病害虫防除

(1).基本的な考え方

近年の病害虫発生状況を見ると、異常気象の影響もありますが、ここ数年にわたり多発するものと少なく推移するもので分けられます。については多発している病害虫については、専門的な薬剤の散布をお知らせし、少発生の病害虫については、総合的な薬剤の散布を情報提供しています。

(2).近年多発している病害虫

- ①.病害 … ベと病・葉枯れ病・軟腐病
- ②.害虫 … タネバエ・ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ

(3).主要病害虫の発生状況

①.べと病 … 近年多発生

【春の発生】



【秋の発生】



… 初めに葉に黄白色の大型病斑を形成し、灰白色の薄いカビを生じます。その後カビは暗褐色となり病斑は進展すると黄白色～灰白色となり葉枯れを生じ枯れてしまいます。

… 病原菌は、被害植物とともに菌糸・卵胞子の形で越冬して、翌年、気温が上昇し降雨が続くと分生胞子を生じ伝染します。4～5月、10～11月頃に連続降雨があると多発します。

→ 提供薬剤 プロポーズ顆粒水和剤・レーバスフロアブル

②.黒斑病 … 近年少発生



… 初め淡褐色で紡錘形の病斑を形成し、その後ややへこんで暗紫色となります。病斑上にスズ状のカビを同心輪状となり、その上下は長く帯状に淡褐色に枯れ、折れやすくなります。

… 病原菌は、被害植物とともに分生胞子・菌糸の形で越冬して、翌年に分生胞子を飛散し伝染します。肥料切れをしたり草勢が衰えると発生しやすく、梅雨時期と9月頃の台風時期に多く発生します。

→ 提供薬剤 ロブラール水和剤

③.さび病 … 近年少発生



… 初め紡錘形の少しもり上がった斑点を生じ、その後斑点の中央部が縦に割れて橙黄色・粉状のカビが飛び出します。病勢が進むと、この斑点に接して褐色斑点を生じ後に紫褐色のカビを形成します。

… 病原菌は、被害植物上に夏胞子・冬胞子を形成して越冬し、翌年夏胞子を生じて伝染します。肥料切れをしたり草勢が衰えた時に発生しやすく、比較的低温で多雨の時に多発します。

→ 提供薬剤 オンリーワンフロアブル

④.葉枯れ病 … 近年多発性



… 初め葉に白色の小斑点を生じ、次第に拡大し周縁部は淡褐色・中央部は赤褐色となり、病斑上に黒色のカビを発生します。

… 病原菌は、被害植物に形成された子のう核・菌糸・分生胞子の形で越冬します。病斑形成後は、分生胞子で飛散・伝染して、高温・多雨条件下で発生しやすいです。

→ 提供薬剤 テーク水和剤

⑤.軟腐病 … 昨年多発生



… 病原菌はバクテリアの一種であり、土壤中の被害残渣野菜や雑草の根圏土壤中に生存し越冬します。生育期間中では、根圏で増殖し傷口や自然開口部より侵入及び感染します。

… 害虫等の食害、無理な管理作業等による裂傷をなくすることに努めて、強雨及び強風による自然災害にも十分に対応できる処置が必要です。

→ 提供薬剤 オリゼメート粒剤・スターナ水和剤

⑥.ネギアザミウマ … 昨年多発生



… 成虫は体長0.8～1.5mm 淡黄色～淡褐色
幼虫は体長0.3mm 白～淡黄色
… 年間5～10回発生し成虫で根ぎわや草むらで越冬します。高温寡雨で急増し成幼虫ともに表皮を舐食します。

→ 提供薬剤 ダントツ水溶剤・ディアナSC

⑦.ネギハモグリバエ … 例年中発生



… 体長2mmのハエ、幼虫はウジ状
… 越冬は蛹で土中に行い、4月頃から発生し年5～6世代繰り返します。葉の内側に潜り込み葉肉を加害し白色の線状痕が残ります。5月及び8～9月に発生が多くなります。

⑧.タネバエ … 近年中発生

【幼虫の食害】



【ほ場での欠株状況】



… 幼虫はウジ・成虫はハエ
… 越冬は蛹で残渣及び土中に行い、成虫は4月下旬幼虫は5月下旬より発生します。食害は幼虫が根部より侵入し被害のひどい株は枯れてしまいます。

… 提供薬剤
スタークル顆粒水溶剤